



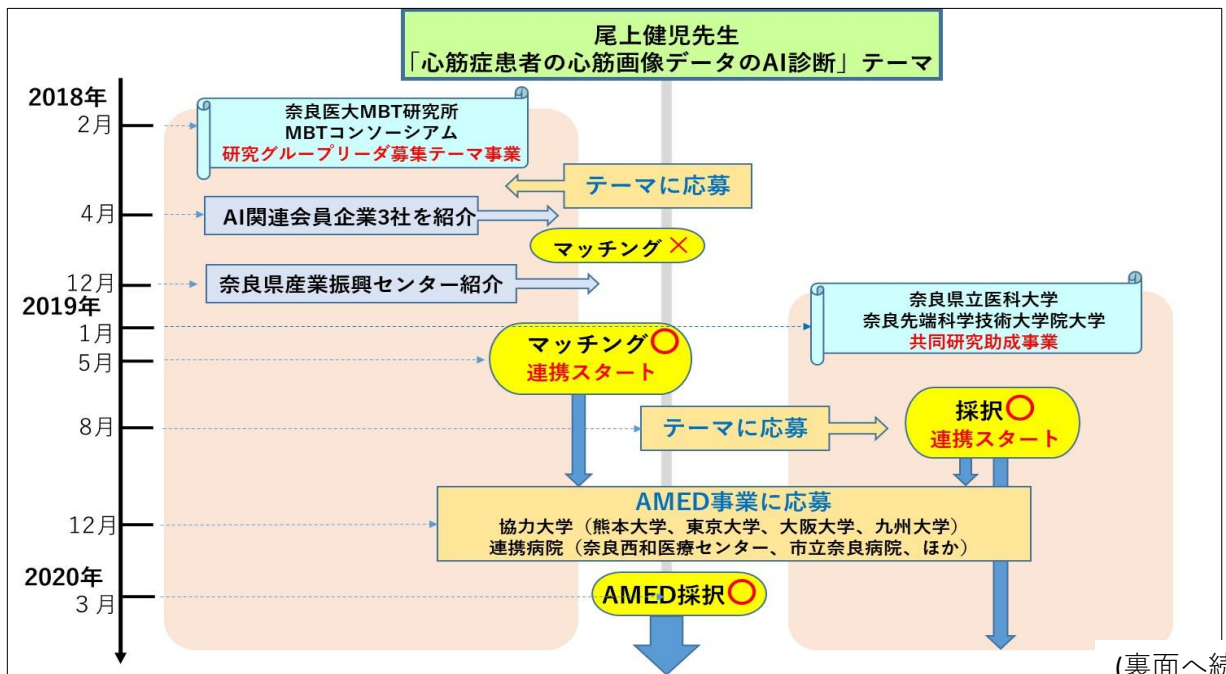
MBT NEWS LETTER

第37号
'20/03/23

“2018年度MBT研究グループリーダー募集”で支援の 尾上健児（循環器内科）先生

テーマ「心筋症患者の心筋画像データのAI診断」がAMEDに採択

- ・MBTでは、奈良医大研究者の研究加速や研究パワーアップを狙いに、奈良医大研究者とMBTコンソーシアム会員企業や一般企業との“研究開発マッチング”を、MBT研究所とMBTコンソーシアムが事務局となって推進してきています（裏面を参照）。
- ・今回紹介の尾上先生は、心疾患患者の治療にも関わる研究者で、特に奈良医大では心筋病理診断を多数行ってきた実績を有するものの、心筋病理診断は侵襲的でもあり、また心臓病理を専門とする病理医や循環器内科医は全国的にも少なく、更には正確に診断できる専門家が少ないことから、AI技術を用いた自動診断システム構築を思い立たれ、2018年4月に研究グループリーダー募集テーマに応募されました。
- ・その推進の中で、奈良県産業振興センターとの出会いがAI技術活用のきっかけとなり、その後、奈良先端科学技術大学との共同研究に発展し、これらの基礎研究をベースに日本医療研究開発機構（AMED）の“難治性疾患実用化研究事業”に応募されました。そして、本年3月に研究内容が評価され採択の運びとなったものです。
- ・尾上先生は、将来的には全国の心筋病理専門家所属施設に協力を呼びかけ、より多くの医療関係者が活用できる自動診断システムを目指しておられます（下図参照）。
- ・今回の紹介のように、MBTは奈良医大研究者の発明やシーズの研究発展や産業創生に向けてのマッチング活動を積極的に推進・支援してまいりますので、いつでもお声掛け下さい。



(裏面へ続く)

発行

(一般社団法人) MBTコンソーシアム事務局 担当:塩山
 奈良県橿原市四条町840番地 奈良県立医科大学 研究推進課内
 TEL: 0744-29-8853 (内線2561)、FAX: 0742-90-1070、Email: mbt@mbt.or.jp

理事長・学長 細井 裕司

皆さんの研究テーマを企業と共同研究にすることによって、研究規模を大きくしませんか。

1. 研究グループリーダーを募集します

一人の研究者が単独研究をする場合には、研究者一人で、実験・データ整理・論文作成を行わなければなりません。企業と共同研究すると、企業側から例えば 5 人の研究者が参加した場合には、研究者 6 人の研究グループができます。研究グループの研究代表者は奈良医大の研究者が務めることとなり、人材・研究費は企業が負担します。これにより、単独研究の場合に比べ、大規模な研究ができます。さらに研究成果は論文にとどまらず、新製品や新サービスとして世界に発信されることとなります。

MBT (Medicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくり) 研究所では「先生方は論文を執筆し、企業はビジネスを展開する。特許は双方で分ける。」との考え方の元に先生方のテーマと企業のニーズのマッチングを図っております。現在、12 教室と企業とのマッチングが成立・進行中です。

しかしながら、MBT 研究所を通じたマッチングでは、若い先生が研究グループリーダーとなっている例は少ないです。若い先生の場合、企業との付き合いの経験がなく、どうすればよいかわからないということが多いのではないかと推察しております。そこで、「自分にはこのようなニーズ・シーズがあり、企業との共同研究ができるのではないか。」というアイデアをお持ちで研究グループリーダーになっても良いとお考えの方を募集いたします。もちろん若い先生ばかりではなくベテランの先生も大歓迎です。

頂いたご提案は MBT コンソーシアム参加企業とのマッチングを図るほか、MBT 研究所のネットワークを使って、関連企業等とのマッチングも試みます。これまで、MBT の活動は企業側から提案があり、それに対して奈良医大が対応していくという形でしたが、これからは奈良医大側から企業側に積極的に提案することもしていきたいと思っております。

MBT 研究所の前身である「住居医学講座」では企業からの寄附は総額 6 億円にものぼり、住居医学講座における研究のみならず、他の 33 講座にも研究奨励金として 3 億円の配分が行われ、本学全体の研究活動の活性化に資するものとなりました。このように企業との共同研究は奈良医大のメリットが大きなものとなることなくありません。奮ってご応募をお願いいたします。